

## <香川県システムについての聞き取り結果>

相手方：高松市消防局、大川広域消防本部

### 1 搬送実績情報

#### (1) 使用して良かった点

- ・他の消防本部の動きが分からなかったが、それが把握できるようになった。
- ・履歴を見て、受け入れてもらえそうかどうかの判断材料になっている。
- ・重症（赤）、中等症（黄）、軽症（緑）の色分けも参考になっている。
- ・特定の病院を希望する患者に対し、込み合っているから無理等の説明にも利用している。
- ・特に、病院が限られている専門科へ搬送する際には、参考になっている。

#### (2) 運用の状況

- ・基本は搬送中に入力しているが、CPA の場合などは入力する余裕はないので、病院収容後に入力している。
- ・操作は、慣れれば手間に感じる程の問題はない。
- ・病院毎の対応可能量については救急隊員が経験でもって把握しているので、搬送実績（込み具合）が分かれば判断できている。
- ・かかりつけ医での対応が必要な場合、込み合っていることが分かっても照会することがあり、この点について医療機関側から苦情がないよう県から周知している。

#### (3) 改善点

- ・予算の都合上予備車には端末がないため、予備車まで出る場合は対応できていない。

### 2 デジタルペンによる情報共有

#### (1) 使用して良かった点

- ・リアルタイムで記載した情報が伝わり、利用している病院からは評判が良い。
- ・現場写真の送信も良い。（事故現場、損傷部位、モニター波形などを撮影し送信）
- ・写真撮影後、デジタルペンの用紙の「写真送信」にチェックするだけで送信され、操作も簡単。
- ・備考欄に断られた実績を記載することで、軽症等患者を三次へ搬送する際の事情説明に利用している。

#### (2) 運用の状況

- ・どの病院でも閲覧可能なため（個人情報搬送先確定病院のみ閲覧可）搬送先選定前に記入してすぐ送信し、受入要請時に見てもらっている。
- ・軽症も含めた全搬送で使用している。診療所など閲覧してくれない所には到着後用紙コピーをしてもらい渡している。
- ・導入前と比べ手間は増えていない。狙いどおり。その上、写真も簡単に送れる。

- ・現場での使用に関しての問題点はない。
- ・電波不感地帯もあるが、電波の届く所へ出てから送信をしている。(それまでにペンでの記載は行っている)
- ・CPA の場合は書く手間がないので、電話で伝達。病院収容後に記録として記入している。
- ・対象外の診療所などは活用できていないが、重傷案件を搬送する主な病院は活用している。

### (3) 改善点

- ・記録用紙の印刷（プリンタで印刷するため、トナー代金と印刷時間がかかる）
- ・出勤の度にペンの充電が必要で、救急車へ外部電源を接続して充電している。帰署後、救急車に電源を接続する、出勤時に抜くという作業が発生した。

## <動画伝送システムについての聞き取り結果>

相手方：室戸市消防本部、安芸市消防本部

### 1 天井カメラについて

- ・救急車出勤時の電源起動のみで、それ以外の操作は不要で手間はない。
- ・手間がかからず、患者状態を説明するのに早く、とても有効。
- ・処置の状況や酸素投与の有無など、説明しなくても見てもらえれば分かる。
- ・医療機関側のカメラ操作でモニターも見ることで、バイタル情報やその変化も伝わる。
- ・状態の変化など、医療機関側がずっと見ていてくれれば安心。
- ・夜間などは、医療機関側が見てくれるかどうか心配。

### 2 モバイルカメラ

- ・口頭で説明するよりも、事故、高エネルギー外傷等の現場の状況が一目で分かる。
- ・カメラを持つ → 録画ボタン → 送信ボタン といった作業が必要なため、救急車単独出勤の場合は使用する間がなく、PA 連携など人が多い時でないと撮影が難しい。  
(ただし、撮影が必要な事案は支援が来ている場合が多い)
- ・現在のシステムは、車体から遠く離れると使用できない、通信が安定しないといった不具合があるため、こういった点の改善が必要。